



## Profile

1996年東京都立大学工学部精密機械工学科卒業、ソフィックス入社。システムエンジニアとして15年従事し、2011年取締役。13年常務、14年～19年名古屋支店長。23年2月社長就任。茨城県出身、1972年生まれの50歳。

## 自動化の先へ

従来のテーマは「全自動化」、就任して掲げたのが自動化のその先である「自律化」だ。「シーケンシャル(順次的)な自動化から、ダイナ

ミック(動的)な自律化へ、ソフトウェアの視点からできることを提案する」と意気込む。

創業35年で初の生え抜き社長。創業35年、ソフトウェア関係のソフト開発エンジニアで始まる

## ソフトで自律化を担う

ソフィックス 直井 貴史 へなおい たかし さん

た。3年目に自動車メーカーの生産管理システムをゼロから立ち上げるプロジェクトを担当。「米国拠点を皮切りに世界展開したため、中国やタイ、ブラジル、英国、インドなど世界中を飛び回った」と振り返る。

リーマンショックの後、39歳で取締役となり難局の経営に当たり、経営体制をしっかりと築く中、次代の社長となるべく経験を積んできた。工作機械業界の中心地である名古屋支店長も経験し、業界との関係を深めた。

## 人を大事に

足元の市況は、右肩上がりの成長が続く。「最大の要因は、メインである工作機械業界のIT投資の勢いが落ちないこと。ソフトやデータによる付加価値創出への取り組みが活発。ソフトを活用したデジタルトランスフォーメーション(DX)の案件が多い」という。3年前に始めたロボットシステムインテグレーター(Sier、エスアイア)事業の引き合いも増えた。

主な事業は、現在は全体の約8割を占める工作機械向けシステム

の受託開発、第二の柱に育てたいSier事業、画像処理や人工知能(AI)など生産の自律化につながる自律化案件の3つ。「メインの業績を伸ばしつつ、他の2つが2割ずつを占めるまで成長したい。昨年15億円の売上高を、3年後の2025年には20億円にするのが目標。メーカーや機種、従来システム、人への依存関係が柔軟である、と独自に定義した『スマートファクトリー』像を、ソフト志向で担う」と力を込める。

会社が築いてきた主に工作機械業界の既存顧客との関わりをより深め、さらにSier事業などで顧客層を拡大する構えだ。「ビジネス環境の不透明感は強い。外的要因は避けられないが、社員が成長すれば会社は成長できる。人を大事にしたい」と今後を見通す。

座右の銘は、仏教用語の「自利利他」。「最後は自分に返ってくる。利他的でなければ自分が幸せにはなれないから」とにっこり笑う。

(芳賀 崇)